

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立鳥栖西中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標『「なりたい自分像」をもち、主体的に考え行動することができる生徒の育成を目指す」を達成するために、育てたい生徒の姿を具体的に示して共有したことで、生徒が考え、判断し、計画・実行する機会をつくらうという風土の醸成がなされた。</li> <li>・学校行事や学級・学年の活動、また生徒会活動において、生徒がトライ・アンド・エラーを繰り返しながら何かを成し遂げる場面が増えたことは、生徒の自己肯定感を高め、学校生活への意欲の向上や学校の活性化につながった。</li> <li>・「学力の向上」について、何をもって学力とするのかを職員で共有し、日々の生徒の学習・生活状況の見取りや、全国・県の学習状況調査の結果を踏まえながら、継続して全職員が指導法改善に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
2 学校教育目標	「なりたい自分像」に向け、主体的に考え行動することができる生徒の育成を目指す
3 本年度の重点目標	<p>学校教育目標の達成を実現するために次の態度を身に付けさせることを目指す</p> <p>○「なりたい自分像」をもち ○見通しをもって計画的に行動する ○自分を振り返り、改善する</p>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○自ら考え、決定し、表現する力を育てる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだと回答した職員の割合90%以上 ○学習の見通しと目的意識をもって学習に取り組み、知識や技能を身に付けることができたと回答した生徒75%以上	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を校内研究の取組の1つとして位置付け、研修会や相互参観等を通して意識を高める。 ・単元を通して身に付けるべき資質・能力を生徒と共有し、生徒が学習内容や自分の理解度を自覚しながら、主体的に学ぶことができる授業の在り方を探る。	A	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだと回答した職員の割合86.2% ・全国及び県学力状況調査にかかる研修会を開催し、講師の指導の下に分析を行い、授業改善に努めた。 ○学習の見通しと目的意識をもって学習に取り組み、知識や技能を身に付けることができたと回答した生徒88.5% ・生徒が見通しをもって授業に取り組めるよう、校内研修会で授業の在り方について探る。	A	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだと回答した職員の割合68.8% ○学習の見通しと目的意識をもって学習に取り組み、知識や技能を身に付けることができたと回答した生徒91.2%	A	・授業参観した際に、生徒たちの授業中の様子がよくなっていることがわかった。これは授業の改善が要因の一つとなっていると思われる。 ・入試の制度も変わっていくようなので、一層の学力向上を目指してほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・道徳教育や体験活動、人権・同和教育を核とした学校教育全体での心の教育の充実に取り組み。 ・「いじめ・いのちを考える日」の取組を通して、命と人権を守ることの大切さを考えさせる。	A	○部活動や社会体育・文化活動等に積極的に取り組むことができていた(3年生は、取り組むことができた。)93.7% ・部活動等を通して、他者への思いやりや社会性について考えるように指導する。	A	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒97.9%	A	・適切に対応できている。今後もいじめの実態を把握し、速やかに対処することで子どもたちが安心して過ごせる学校にしてほしい。 ・不登校に対してもアンテナをしっかりと張って、できるだけ減らせるよう今後も頑張りたい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 定期的な生活アンケートを実施する。	●アンケートにおいて、学校生活を楽しく感じることができると回答した生徒が90%以上 ●人の話をよく聴き、相手の立場に立って考えようとすることができると回答した生徒が80%以上	・いじめの未然防止に重点を置き、早期発見・早期対応・再発防止を柱として、組織的な対応を行う。生徒指導体制や教育相談体制の整備を行い、家庭や関係機関との連携を重視して、生徒一人一人に寄り添った支援の充実に取り組み。	A	○いじめや差別は許さないという意識を持ち、お互いの良さを認め合い、思いやりをもって行動している生徒97.3% ・定期的に生活アンケートを行い、いじめ等早期発見に努めた。 ●人の話をよく聴き、相手の立場に立って考えようとする事ができると回答した生徒が80%	A	●アンケートにおいて、学校生活を楽しく感じることができると回答した生徒が88.1% ●人の話をよく聴き、相手の立場に立って考えようとする事ができると回答した生徒が94.8%	A	・継続して、アンテナを高くする必要がある。 ・生徒と先生の関係が良好に思える。 ・生徒たちがいじめの大きな事案なく生活できているようなので、先生方には引き続きのご指導をお願いしたい。 ・学校生活を楽しく感じることができていない生徒については詳しく把握しておく必要がある。
	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・教科の学習、学校行事等を通して、自らの夢や目標について考えさせる場面や時間を設定する。 ・キャリア・パスポート等を活用して、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の姿容や成長を自己評価できるようにする。	B	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒95.8% ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒70.9% ・キャリアパスポート等を活用し、教科の学習、学校行事等を通して、自らの夢や目標について考えさせる場面や時間を設定する。	A	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒95% ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒74.6%	A	・適切に対応できている。 ・「職業人に学ぶ」講座は素晴らしい取組だった。講師の選任に広がりを持たせたい。 ・「職業人に学ぶ」講座は、生徒たちの話の聞き方や謝辞、会の進行など、協力いただいた企業からも好評だった。
●健康・体づくり	○(学校独自重点取組・任意)	○	・	B	・	A	・	A	・
	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」 ●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上 ●安全・安心な学校給食の実施や学校の教育活動全体を通じた食育に関する取組。「日刊給食たより」を用いて昼食時に食に関する放送を行い、健康と食事について考えさせる。 ●「健康は何より大切な」保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒80%以上	・運動部活動の活動時間(平日2時間、休日3時間程度)を確保できるようにする。保健や体育の学習を通して、運動を続ける効果について学習させる。 ・安全・安心な学校給食の実施や学校の教育活動全体を通じた食育に関する取組。「日刊給食たより」を用いて昼食時に食に関する放送を行い、健康と食事について考えさせる。 ・講師を招聘し、実情に合った交通安全教室を実施する。また、生徒会と連携し、自転車の乗り方や交通マナーの確認、定期自転車点検を行う。 ・保健体育の学習の学び方を工夫し、実生活に活かすことができるようにする。	B	●「食事の大切さを理解し、健康を保つためにバランスのとれた食事をしよう」と意識している児童生徒91.9% ●給食たよりの発行や放送による啓発を継続的に行う。 ●児童生徒の交通事故が発生した。 ・自転車に関する道路交通法の改正を含めた交通安全教室を開催する。 ●「健康は何より大切な」保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒75.4% ・保健体育の授業で学習した内容を、実生活と結びつけることができるようにする。	A	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒67.9% ●「健康に良い食事をしている」児童生徒92.1% ●中間評価以降は交通事故は発生していない。 ●「健康は何より大切な」保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒91%	A	・適切に対応できている。部活動の地域移行が進んでいないように見える。現状がどのようになっているか、進展があれば随時教えていただきたい。また協力できることがあれば、協力していきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・校務分掌の確実な遂行に取り組み、「チーム西中」の意識のもと、計画的・組織的な業務遂行に努めるようとする教職員の意識向上を図る。 ・定時退勤日の確実な実施に取り組み。また、平日でも目標とする退勤時間を設定し、教職員へ周知することで、退勤時間遵守に向けた意識化を図る。	B	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守するよう努めた職員41.3% ・「3分間14の取組」について研修を行い業務の削減を図る。 ・業務の負担が一部の職員に偏って在校時間が長くなっていたり、休暇を取りにくい状況が発生したりしているようであれば、校務分掌を見直し改善を図る。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上を達成できるよう努めた職員27.6% ・在校時間の確認や働き方改革に対する意識の向上を呼びかける等を行う。	B	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守できた34.4% ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上取得達成者。34.4%	A	・適切に対応できている。 働き方改革の意識は高まってきていると思う。 ・学校現場の業務量が多いので、職員の数を増やす必要がある。 ・教職員の労働条件の改善は、自助努力では難しいことも多いと思う。国や県、市にもっと働きかけて、人数を確保していかないといけないと思う。
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・	B	・	A	・	A	・
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する理解の啓発と教師の専門性と意識の向上	○特別支援教育コーディネーターと関係職員を中心として、特別支援委員会を週1回開催する。 ○特別支援学級の担任同士で、スキルアップのための研修を行う。	・委員会を週1回定期的に開催し、生徒の情報交換、支援計画や指導計画の作成や、具体的な対応に関する協議を行う。 ・特別支援学級の担任を中心として、支援を必要とする生徒が社会的・自立的・職業的な自立に向け、自らの生き方について考え、希望する進路を実現できるような進路指導及びキャリア教育の充実に取り組み。	A	○特別支援教育コーディネーターと関係職員を中心として協議し、個別の指導・支援に努めた75.9% ・支援が必要な生徒の状況や個別の支援計画について、職員連絡会等の機会に全職員で理解し、専門性と意識の向上を図る。	A	○特別支援教育コーディネーターと関係職員を中心として、特別支援委員会を週1回開催できた。 ○特別支援学級の担任同士で、スキルアップのための研修を行うことができた。	A	・適切に対応できている。その一方で仕事量が増えすぎていないかを心配している。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・教科「日本語」の取組について、学期に1回程度、学校・学年たよりで保護者や地域に知らせる。 ・保護者・地域に対して教科「日本語」の授業を公開する。 ・学校全体で授業に関わる体制を構築し、魅力的な授業づくりを行う。	A	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率67.7% ・1学期の授業参観では教科「日本語」の授業を公開した。 ・文化発表会において教科「日本語」の授業における作成物を展示した。	A	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率67.7% ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率100%	A	・67.7%はやや低いと感じたが、授業参観の公開授業の際に通常の教科も公開しているからと聞き、納得できた。 ・鳥栖市独自の取組なので、今後も大切にしていきたい。

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標『「なりたい自分像」に向け、主体的に考え行動することができる生徒の育成を目指す」を達成するために、学校教育目標を校内研究会のテーマにすることで、職員の意識の向上につながった。</li> <li>・学校行事や学級・学年の活動、また生徒会活動において、生徒が運営をするスタイルにしたことで、見通しをもって計画的に行動する意欲の向上や学校の活性化につながった。</li> <li>・校内研修会や普段の生活アンケート等により、自分を振り返ることが学校や家庭での生活や学習を改善しようとする姿勢につながった。</li> </ul>
--------------------	---